

特集 1

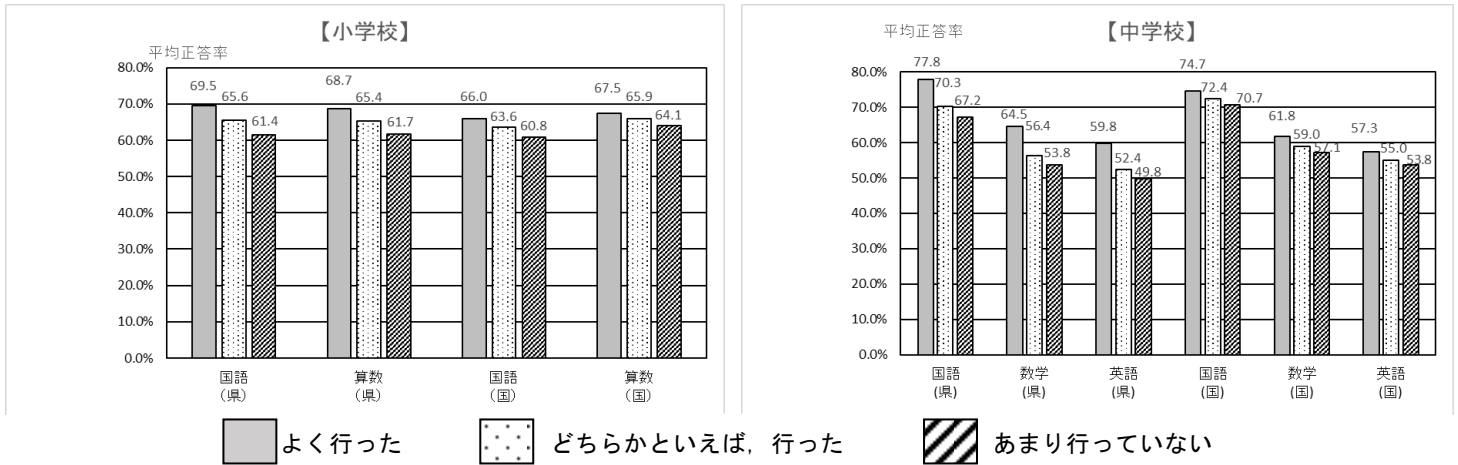
確かな学力の定着を図るための「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況が進んでいる学校は、全教科ともに平均正答率が高い傾向が全国で見られます。本県においても同様の傾向が見られます。

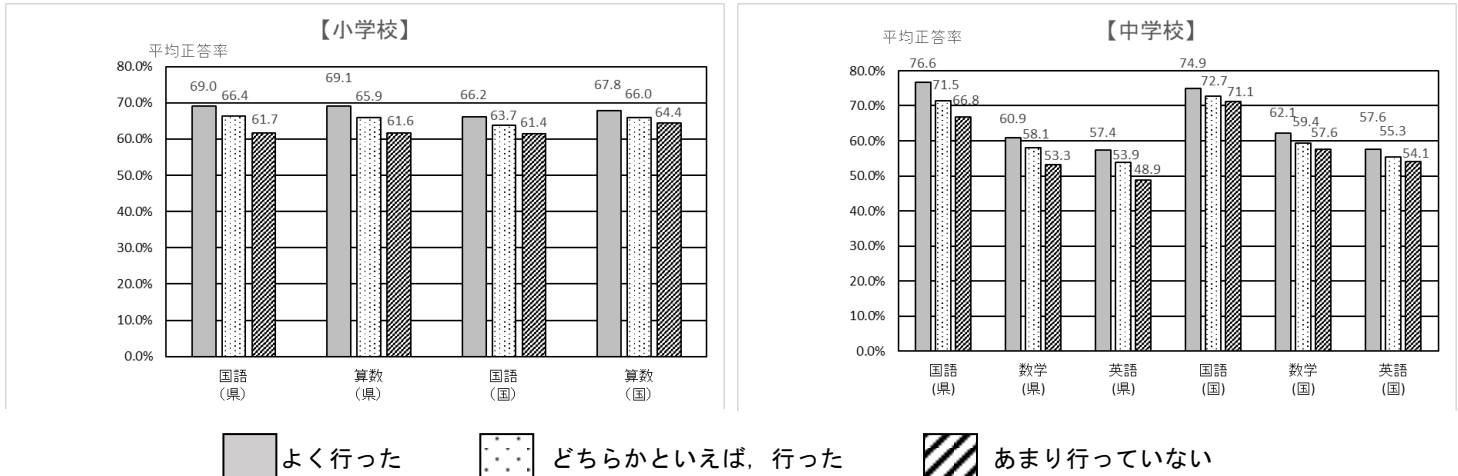
多くの児童生徒に、「主体的・対話的で深い学び」を実感させるとともに、目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めましょう。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組状況と学力の関係

- 1 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。《学校質問紙37》

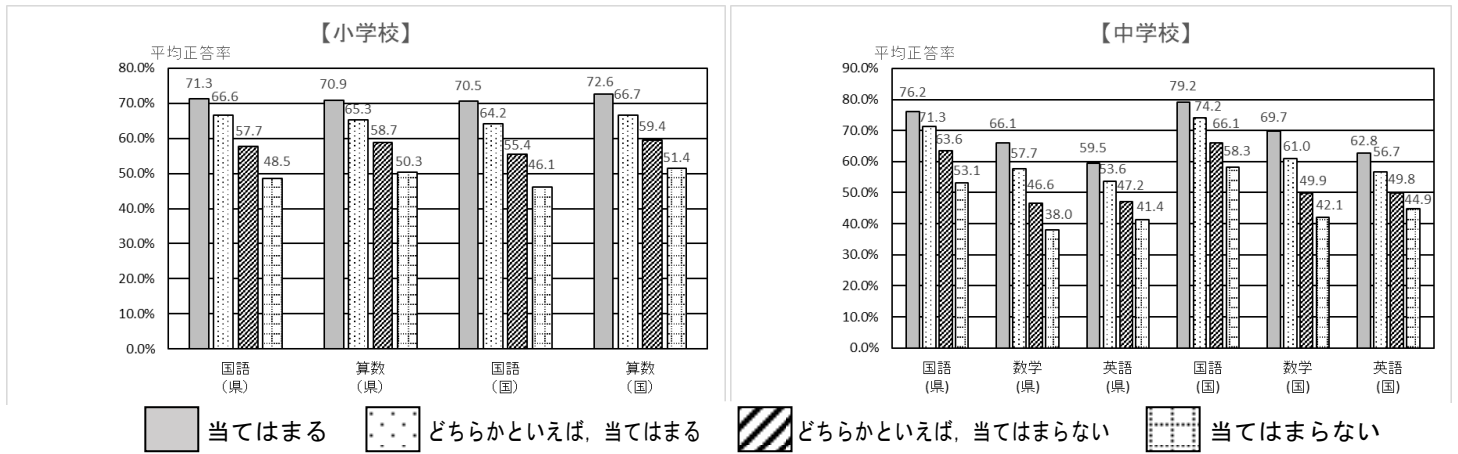


- 2 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。《学校質問紙38》

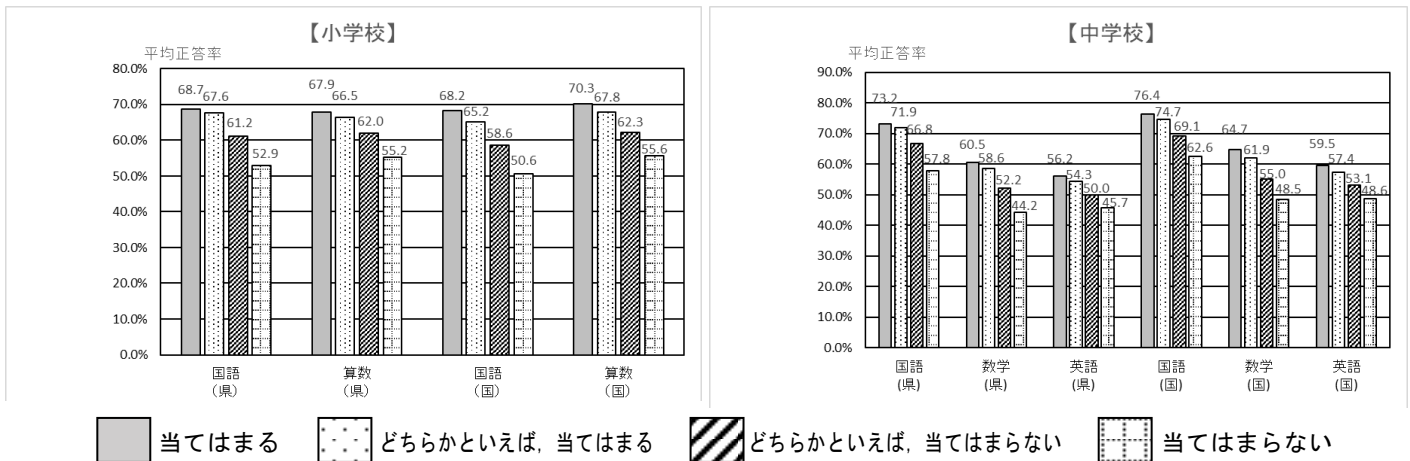


児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の受け止めと学力の関係

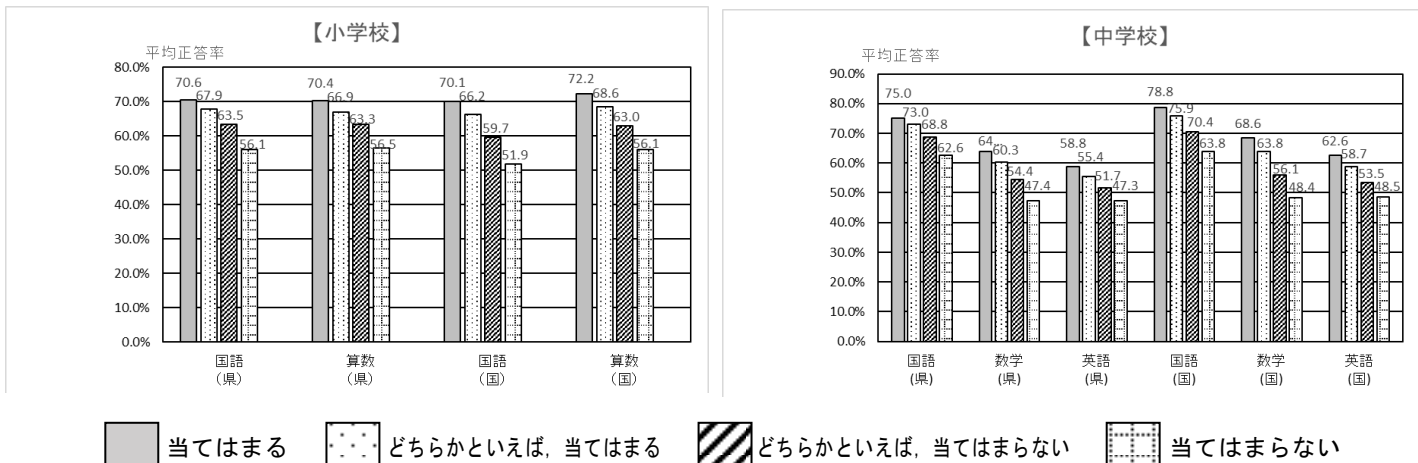
1 小学校5年生まで（中学校1，2年生のとき）に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか。《児童質問紙35，生徒質問紙37》



2 学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか。《児童質問紙29，生徒質問紙32》



3 小学校5年生まで（中学校1，2年生のとき）に受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。《児童質問紙36，生徒質問紙38》



以上の結果から、「主体的・対話的で深い学び」の実践と学力には明らかに相関があると
 言えます。このことを踏まえ、自校のクロス集計（学校質問紙－教科，児童生徒質問紙－教科）
 を確認した上で、「主体的・対話的で深い学び」の実践を進めてください。

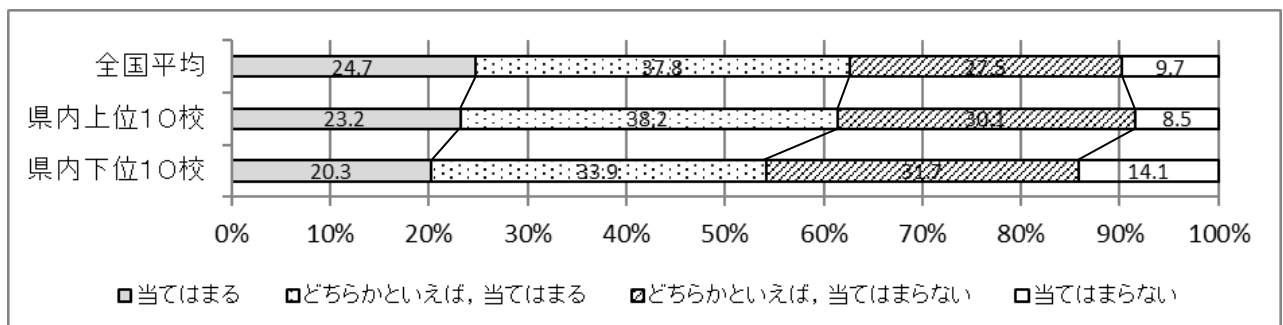
一方で、本県の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、全国と比べ
 て必ずしも進んでいない状況も明らかになりました。

次のグラフは児童生徒質問紙で「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく
 伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
 《児童質問紙36，生徒質問紙38》」と問われた児童生徒の回答結果です。

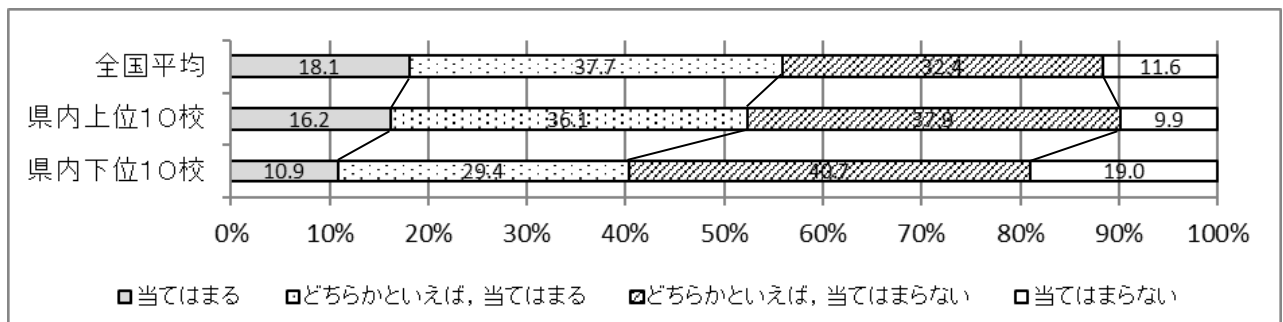
【平均正答率県内上位10校と県内下位10校の児童生徒の回答の比較】

（対象学年在籍者数が50人以上の学校）

〔小学校〕



〔中学校〕



県内上位10校の方が下位10校と比べて肯定的な回答をした児童生徒の割合が高くなっ
 ています。しかし県内上位10校でさえも肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を
 下回っていることは重く受け止めなければなりません。

授業の中で自分の考えを表現したり、相手にうまく伝えたりするような学習活動が、十分
 になされていない状況が見られます。

児童生徒が考え方を広げ深められるように、授業の中の表現活動の設定を促進することが
 大切です。